

# 紙を主としての製作

附商 遊

大阪市立精華幼稚園

## ◎誕生會の贈物から見出された

### 紙の製作について

#### 一、動機

當園では、昨年四月から誕生會を催し、幼兒の贈物として紙を主にしての製作物を作つて來た。作品其物は、早速幼兒の生活に満足と與へる玩具となつて現はれるから、非常な興味を持つて取扱ひ、使ひ方迄も工夫をこらして喜んで作る様な有様で、過程を喜び且つ結果をも楽しんで活動する状態は、とても拙き筆に表す事の出來ない程、從來

の製作に比し價值ある事を認め、此の實現によつて指導者にとつても一層心強く感じた。淺薄な研究ではあるが發表して御批正を賜りたいのである。

#### 二、撰 擇

イ、自由製作中から適當と認められたもの。

ロ、廢物を利用し、指導者と共に考案せるもの。

ハ、家庭で、幼兒の好んで求める玩具等の中から。

ニ、多くの幼兒が、興味を持つて遊べるもの。

中から。

ホ、玩具店などで観察した中で、簡単に活動な  
ものから。  
目的決定しての自由製作、目的決定しての模倣製  
作。

三、製作材料

五、保育上の價值

イ、紙類 織紙の廢物、組紙、廣告紙の殘物、  
外に摺紙、色畫用紙、紙テープ等  
イ、心を込めての贈物を尊ぶ。

ロ、紐類 毛糸、木綿糸、赤白の撚糸、細麻  
糸等  
ロ、共同生活のためのしみ

ハ、雑 竹籤、細竹、葎、粘土、黍殼、麥  
稗、針金、鳩目、ゴムバンド等  
ハ、没頭性によつて、性格の良習慣を作る。

ニ、用具 鋏、糊、手工板、クレオン等  
ニ、工夫創作の力を養ふ。

ホ、情操を養ふ。

ヘ、色彩の調和と美感とを養ふ。

ト、物品を大切に取扱ふ習慣の養成

誕生會の贈物から見出された紙製作一覽表

月	組別	品目	材料	方法	保育中の所感
四、五月	保姆軍配團扇	畫用紙、組紙	保姆製作	幼兒の製作出來得る範圍のものを作つた。	
	紫組家	畫用紙	模倣(指導)	出來上れば砂箱の上に配置して遊ばうと、種々目的を以て喜んで製作にかゝり、容易に仕上げた。	

七月						六月				
保姆	赤組	黄組	樺組	緑組	紫組	保姆	赤組	黄組	樺組	緑組
月星圓型袋	巾	こ	コ	蝙蝠傘(開)	手籠	籠型手提袋	日の丸旗	かばん	箱	かぶと
打畫用紙、組紙	打摺紙、毛紙	豆、打紙、紙	打畫用紙	麥、紙、竹	毛畫用紙	打畫用紙	葭、紙	打摺紙	摺紙	打新聞紙、色紙
紙	紙	紙	紙	豆	紙	紙	紙	紙	紙	紙
保姆製作	同	同	同	同	模倣(指導)	保姆製作	實物模倣	同	同	同
第一行に同じ。	容易に出來た。各兒腰にさげて喜んだ。紐附は保姆が手傳ふ。	豆のつかひ方が未だ充分慣れて居ない爲、大ぶん潰れたのがあつた。竹籤を通す窟用紙の穴は保姆が手傳ふ。	自分の持つて居る湯呑の格好と同じだと云ふて大喜び、終まで一生懸命であつた。模様は打摺紙と與へて隨意につげさせた。	竹籤を通す穴を、小さくあける事に注意。模様を貼る糊は、要所丈につけさせた。	毛糸を通す事が困難の兒が多かつた。中に入れる物を想像したりして、非常に喜んだ。	第一行に同じ。	祝祭日に門前に出した國旗の記憶を喚起して仕事にかゝつた。全兒容易に仕上ぐ。作品を以て旗行列を行ふ。	摺方は全兒たやすく出來たれど、切り方に於て四、五名間違へた者があつた。	製作容易、手は保姆がつける。	幼兒の半数はすでに會得して居た。大きく出來上つた物を被つて武者振る兒もあつた。皆々大満足で仕上げた。

八、九月

赤組	黄組	樺組	緑組	紫組	保姆	赤組	黄組	樺組	緑組	紫組
か	鯛	動	色	蜻	白	金	蝠	七	盆	團
			紙		兎		蝠	夕	提	
ご	釣	兎	み	蛤	袋	魚	傘(開)	網	灯	扇
組	針	畫	畫	畫	打	摺	摺	色	摺	色
畫	畫	用	用	用	用	紙	紙、毛	紙	紙、厚紙、	紙、用
用	用	紙	紙	紙	紙	糸	糸	紙	紙、	紙、
紙	紙	紙	紙	紙	紙	糸	糸	紙	紙	紙
同	同	同	同	模倣(指導)	保姆製作	同	同	同	同	模倣(指導)

畫用紙の極薄手が適當。竹箨と紙との糊つけが困つた。然し乾いた後骨を切る時は非常に喜んだ。模様は隨意。最初製作品を見て幼児は「むっかかしな!」と言つた。然し容易に出来上り非常に喜んだ。上の口を貼る時ゆがまない様に注意した。在右差し違へて剪る事かなか、困難であつた。やつと出来上つた時は大へん喜んだ。七夕の歌を歌つて振り歩いた。紙の先を鉄でつむ所が大きすぎる心配がある。模様の方がむつかしかつた。出来上りが擴らぬのが物足らぬ憾があつた。頭と尾の切込み、並に釣糸を竿に附ける事は、保姆が手傳つた。

第一行に同じ。

背と胸を間違へて糸をつける者あり注意した。出来上つた物を振かざし室中を色々誦ひ乍ら野原の様に駆廻つた。表紙の意匠は各兒隨意。製作方法を會得して後、家に歸り大小種々拵へて、自己の色紙を整理して居るのを見受けた。仕事を二回にした。製作後動かして遊んだ。

塗方容易。前方に於て鱗を剪落した者があつた。左右二枚貼合す時困つたから其のわけを悟らせた。

製作品を見て、幼児は一齊に市場行きのかごと呼んだ。中の品物を連想して、家の買物の内容を發表した。

拾月

保姆

菊

花

袋

摺紙、畫用紙

保姆製作

第一行に同じ。

紫組

動

搖

犬

畫

用

紙

模倣(指導)

台と四肢との間の剪抜く箇所で困つてゐる児には、各切口を入れて手傳つた。馬ライオン虎等を工夫した。

綠組

勳

章

摺紙、打抜型紙

安全ピン、色紙

紙

紙

同

二雙船の折方を、充分練習した後着手、椽は保姆が剪る

樺組

小

箱

打畫

用

型

紙

紙

同

玉手箱を追憶して製作す。

黃組

日

の丸

風車

籾、白

麥稈、打抜型紙

紙

紙

同

豆の使用方に注意を要す。旗を反對側に貼付ける事を忘れる者がある。

赤組

椅

子

畫

用

紙

紙

同

先月の籠と同剪方で、椅子の出来る事を工夫させた。然し少々困難の様子を見受け遂に指導した。それから玉手箱炭箱の工夫が出た。

拾一月

保姆

鳴

子

袋

打

ラシヤ紙、組紙

紙

紙

保姆製作

第一行に同じ。

紫組

風

船

打

色

紙

紙

模倣(自由)

最後の折込む箇所を、きれいにする様注意した。糊付をていねいにする程、使用中にくるひが来ない。

綠組

ハンド

バック

摺

紙

紙

紙

模倣(指導)

以前カバンを作つたから折方は無難、然し剪方に於てやはり間違ひがあつた。女兒は非常に喜んだ。

樺組

桃太郎

目

畫

用

紙

紙

同

製作容易。保姆は目の打抜及鳩目附をなす。鬼が鳥征伐の意氣を以て大いに活動した。大猿雄鬼等の目蓋の製作を希望した。

黃組

紙

鐵

砲

打

拔

型

紙

紙

同

大部分の兒は、すでに家庭で折方を會得して居た。然し非常に喜んで製作した、後で戦争ごつこに使用した。

十二月

一月

赤組	保姆	紫組	緑組	黄組	樺組	緑組	紫組	保姆	赤組
人形座ぶとん	手提袋	越後 凧	カレンダ	あねさま目鱈	こま	カレンダ	越後 凧	手提袋	人形座ぶとん
紙代	打紙組	美濃紙、テ	色紙、打紙	細畫用紙、ハ	摺紙、黍穀	色紙、打紙	美濃紙、テ	打紙組	紙代
紙	紙	紙	紙	紙	紙	紙	紙	紙	紙
同	保姆製作	模倣(指導)	同	同	同	同	模倣(指導)	保姆製作	同

一枚で満足せず、全兒二枚宛に作った。早速、あね様ごつこに使用してよく遊んだ。

第一行に同じ。

全仕事を二回に區切った。保姆は細糸を附ける丈を手傳ふ。幼兒は突風をおかして、三日も屋上に昇り、凧上して喜んだ。

全仕事を二回に區切った。表を重ねて、台紙に括り付けする仕事は保姆をした。非常に喜んで、一所懸命仕事に没頭した。保姆はたゞ穴をあけてやった。

鳩目付は、保姆が手傳ふ。

自由に塗らせたが、先づ眼、眉、リボン、帽子、の順に塗った。要領よくなつた。鳩目付は保姆が手傳ふ。

第一行に同じ。

かどの折目を強くする様注意した。

最初正方形の畫用紙に折目を入れ、それに切込を入れて製作す。次に作圖した用紙で、再製作した入口を貼る時困つた兒もあつた。

頭部は保姆が作ったものを用ふ。尾をつける時に、三角形を間違へて貼る者あつた。注意を要す。

三月				二月						
緑組	紫組	保母	赤組	黄組	樺組	緑組	紫組	保母	赤組	黄組
櫻	桃	ト	鬼	四角日の丸	組	お多福目	鶏のおもちや	年	飛行人	落
と	花	ラン	目	の丸	紙	目	ちや	越	形	下
橘	箱	ク	蠶	風	風車	蠶	袋	袋	傘	傘
摺紙、打拔型紙	摺紙、打拔型紙	打拔型紙	畫用紙	色紙、紙、籤	組紙	畫用紙、細紙	グロリー煙草	畫用紙	馬糞紙	薄紙、小石
同	模倣(指導)	保母製作	同	同	同	同	模倣(指導)	保母製作	同	同

全仕事を三回に區切つた。紙を剪るのに困つた兒があつた。つけた糸に、小石を括るのを保母手傳つた。

馬糞紙は極薄手がよい。

第一行に同じ。

最後の糸附は保母手傳ふ。出来上れば自分が使ふより、弟妹に與へようと考へて製作した。

極容易に仕上げた。之を遊ぶ中に面白い刺を仕組み、永らく遊んだ。

三筋組合す事が困難、半数の兒は個人指導をした。

仕上げを樂んで製作した。糸附は保母が手傳つた。

容易に出来た。

第一行に同じ。

塗方は非常に巧になつた。花びら及底の五片をねぢ込む事に大ぶん工夫した。

一本は保母指導し、二本目は練習の意味で、各自由にならせた。仕事を二回に區切る。

備考

樺組	内	裏	様	摺畫	用	紙	紙	同
黄組	か		ご	打畫	用紙、組	紙	紙	同
赤組	屏		風	打畫	拔用型	紙	紙	同

顔面は保母の作ったものを使用す。製作は極めて容易。  
 四隅の接目に困つた兒があつた。  
 案外たやすく出来たが興味は少かつた。然し贈られた兒は非常に喜んだ。

- 1、鋏、クレオン、手工板、糊は毎回準備す。
- 2、製作時間の永びく場合は、二回又は三回に區切る事がある。
- 3、組別年齢

紫 緑 樺 組 (年長兒)  
 黄 組 (年長兒合併)  
 赤 組 (年少兒)

◎ 模倣遊戲具組立屋臺

人間生活の最も純真な所は、グループを作つて、出過ぎず又他を侵さずしかも心と心との相互作用に依つて、一人では出せぬ新しき力とも云ふべき

ものを産み出す事である。幼兒が五六人集つて、畫き方粘土細工商ひ遊び等をなす時、一兒が他兒の活動を見て、真似るでもなくして、それより受ける影響感化で本然の具體生活を現す事が出来



る。此方は、保姆が模範を示して導かんとする事に  
くらべて、其質及強さに於て、餘程の相違があ  
る。

(一) 動機

當園幼兒は、自由遊戯の際、製作品或は玩具等  
を排べて盛に商ひ遊をする、殊に誓文拂後の遊び

(二) 用具

寸法	數量	材料	價格
床板 長巾 一三〇〇 二〇〇	二枚	米杉	
隅方立 長角 四八	四本	同	
臺輪 四角 角長五三 三〇	二本	同	
土臺 四角 角長一〇 三〇	二本	同	
柱 同 角長一〇 四〇	二本	同	
腕木 三角 角長一〇 一〇	二本	同	
天幕 五角 角長一二 〇〇	一張	白木綿	

は真劍である。自分の机を利用し、時には古机を  
適當な所に持ち出して、屋臺店を作り、得意にな  
つて遊んで居る。此の遊びからヒントを得て、幼  
兒の手にてなし得る、簡単な組立屋臺店を考案し  
た。

裝飾用赤布

一一一  
六  
張枚本枚

赤ナフト  
ルモス

約六圓

五六

但し幼兒が組立に要する時間、約二〇分(初めて組立てた時間)

(三) 商ひ遊びの實況

賣手 約五人(金錢出納係敗賣係、外交係等各

自に定む)

買手 多數

お金 打抜の五錢白銅、一錢銅貨、並におはぢ

き貝等を用ふ。

(四) 指導上の注意

指導者は、賣手買手の間に立ち、干渉なくして

相互生活を可能ならしむる事は、幼兒教育者として

特に注意を要する事で、即ち幼兒をして私の遊

びに共鳴して呉れるいは、此の先生だと感ぜしむ

る事が、出来る様に努力して居る。

(五) 保育上の價値

イ、共同作業の一資材

ロ、物品を、整理する良習慣を養ふ。

ハ、遊びの中に、數の觀念を養ふ。

ニ、適當な言語の練習

ホ、公德心の養成。

ヘ、幼兒の生活内容を容易に直觀し得。

ト、お互の交渉を適當に處置する能力。

チ、物の調和及配置等に氣をつける。